

なかま

プリンストン日本語学校

平成29年度 No.40

平成30年 3月4日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org



「はやくきてくたされ」

『おまいの ○ しせにわ ○ みなたまけました ○ わたくしもよろこんでをりまする ○ なかたのかんのんさまに ○ さまにねん ○ よこもりを ○ いたしました ○ べん京なぼでも ○ きりかない ○ いぼし ○ ほわこまりをりますか ○ おまいか ○ きたならば ○ もしわけかてきましょ ○ はるになるト ○ みなほかいドに ○ いてしまします ○ わたしも ○ ころほそくあります ○ ドかはやくきてくたされ ○ かねを ○ もろた ○ こたれにもきかせません ○ それをきかせるトみなまれて ○ しまします ○ はやくきてくたされ ○ はやくきてくたされはやくきてくたされ ○ はやくきてくたされ ○ いしよのたのみて ○ ありまするにしさむいてわ ○ おかみひかしさむいてわおかみ ○ しております ○ きたさむいてわおかみおります ○ みなみたむいてわおかんております ○ ついたちにわしをたちをしております ○ むささまに ○ ついたちにわおかんてもろております ○ なにおわすれても ○ これわすれません ○ さしんおみるト ○ いただいております ○ はやくきてくたされ ○ いつくるトおせてくたされ ○ これのへんちちまちてをりまする ○ ねてもねむられません』

◆たどたどしく、拗音・促音も省略され誤表記も多い少々読みにくい文章ですが、読んでみると書き手の気持ちが痛いように伝わってきます。野口英世に宛てたお母さん(シカ)の手紙です。伝わってくる母の気持ちは、相手が高名な野口英世だからかもしれません、伝えたい気持ちが素直に書かれていることは間違いありません。まさに「達意の文章」です。日本国内でも、なぜか作文好きの子どもはそう多くはいませんが、おそらく全員が話し好きの子どもかもしれません。(授業中でもおしゃべりをしたいほどですから…)自分のこと・経験したことは目を真ん丸にして話し続ける子どもたちなのに、いざ作文となると腰が引けてしまいます。表現することが大好きな子どもたちを作文から遠ざけるその原因は「良い文章を書かなければならない」という、自らの重圧からなのかもしれません。文章には良いものとそうでないものがあるのは事実ですが、「達意」であることが良い文章の最大条件といわれます。作文には様々なきまりや技術は必要でしょうが、苦手意識を持つ子には、まずは「達意の文章」を書かせてあげたいですね。野口シカさんのように、お母さんが子どもに書く手紙は、おそらくどれも「達意の文章」だと思います。そんな手紙のやり取りも、時には子どもたちには必要なことかもしれません。シカさんの手紙の内容は2ページ目に掲載(※1)



高等部ミニ講演会

先週は、プリンストン大学、東京大学で教授としてご活躍されている佐藤仁氏をお招きして、高等部恒例のミニ講演会が開催されました。ご自身の体験や「働かないアリ」の話、ご自身の研究、フィールドワークの際の逸話等をお話しくださいました。「すぐに役立つことは、すぐに役に立たなくなる」「大学に何を求めるか、ではなく、それは自分に何を求めるかということ」等の言葉や、「能力・努力・運」の相関など、一生徒として参加させていただいた私にも、大変含蓄に富み印象深い経験となりました。佐藤先生、お忙しいところありがとうございました。今回のご講演の関連著書:『教えてみた「米国トップ校」』(佐藤仁先生著:角川新書)があります。



まだ、「なかま」未満ではありますが…

幼稚部の体験入園が行われました。この4月に入園予定の子どもたち。どの子どもも新しい経験に、文字通り目を輝かせていました。その可愛さに思わず手元が狂い、少々見難い写真となりましたが、これから新たに「なかま」となる頼もしい子どもたちです。4月からは皆さんで応援してあげてください。よろしくお祈りします。



今後の予定

- 本日** 冷泉彰彦氏講演会(304)13:00~
「日米のカルチャーギャップと教育について」
理事会
野菜ネット販売(今年度最終)
- 3月11日** 卒業式リハーサル(304)
進学懇談会13:00~(112)
「日英バイリンガル教育と進学におけるメリット」
- 3月18日** 卒業式・修了式

- 【平成30年度】**
- 4月8日** 平成30年度
入学式・始業式
- 4月15日** 平成30年度
選択授業開始



なかま

プリンストン日本語学校

平成29年度 No.40

平成30年 3月4日

文責 荒川雄之 arakawa@pcjls.org



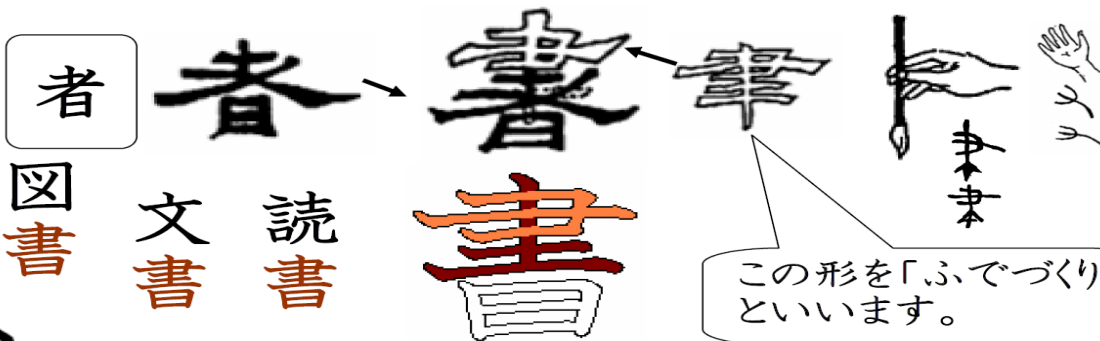
(※1) 野口シカさんの手紙の内容

「お前の出世には、皆たまげました。わたくしも喜んでをります。中田の観音様に、毎年、夜籠りをいたしました。勉強なんぼでも切りがない。烏帽子(烏帽子村から金の催促)には困りをりますが、お前が来たならば、申し訳ができません。春になると、みな北海道に行ってしまう。わたしも、心細くあります。どうか早く来てください。金を貰うたこと、誰にも聞かせません。それを聞かせると、みな飲まれてしまいます。早く来てください。早く来て

ください。早く来てください。早く来てください。一生の頼みであります。西さ向いては拝み、東さ向いては拝みしてをります。北さ向いては拝みをります。南さ向いては拝んでをります。一日には、塩断ちをしてをります。栄昌様(天台宗の修験者)に一日には拝んでもろてをります。なにを忘れても、これ忘れません。写真を見ると、戴いてをります。早く来てください。いつ来ると教へてください。これの返事待ちてをります。寝ても眠られません。」
(引用元/野口英世資料館 参考/ウキペディア)

漢字の成り立ち ～ 筆「ふでづくり」を持つ字(も)つ字(じ)～ No.9

●『ふでづくり』と『者』とがひとつになって『書』という字が生まれました。



●その他『ふでづくり』はこんなところにも生きています。



法律(ほうりつ)をたてることを「建」といったそうです。だから、法律が作られて国が生まれてくることを「建国」といいます。その後、柱をしっかり立てて家をたてることにも用いられるようになりました。建物(たてももの)、建築(けんちく)、建造(けんぞう)という言葉に「ふでづくり」があるのはそのためでした。

「ぎょうにんべん」は、「行」と同(おな)じ意味(いみ)でゆく、すすむということ。
「ふでづくり」は、筆で書いたきまりのこと。人々(ひとびと)に広(ひろ)くゆきわたらせる法律(ほうりつ)を『律』といっています。
6年生の歴史に出てくる律令(りつりょう)も関係あるね

「建」に人をあらわす「にんべん」を加えて「健」となり イ+建



しっかり元気なことを健(すこ)やか、「健康」(けんこう)というようになりました。